

平成 30 年 8 月 15 日

政務活動研修報告書

下記のとおり、研修会等に参加しましたので、宍粟市議会政務活動費の用途に関する要領第 6 (7) の規定により報告します。

記

1. 研修日時	平成 30 年 8 月 2 日 (木) ~平成 30 年 8 月 3 日 (金)
2. 研修先	全国市町村国際文化研究所 (滋賀県大津市唐津 2 丁目 13 番 1 号)
3. 研修参加者	西本 諭 (公明市民の会)
4. 主催者	全国市町村国際文化研究所 (国際文化アカデミー)
5. 講師等の氏名 及び略歴	(講師氏名及び演題等を記載) ① 慶応義塾大学学事顧問・慶応義塾大学客員教授 清家 篤 氏 ② 全国市町村国際文化研究所学長 (前総務省地域力創造審議官) 池田 憲治氏 ③ 京都産業大学法学部教授・学長補佐 (前京都府知事) 山田 啓二 氏 ④ パラアイスホッケー銀メダリスト (バンクーバー) 永瀬 充 氏
6. 研修目的	急速に進む人口減少・少子高齢化社会に対して、国は様々な対策や方向性を示すものの、現実的に地方行政の取り組みは、そのギャップをどの様に埋めていくのか。また合わせて、社会的弱者や障害者が共に生きる喜びを感じる社会にするために、重要な役割を担うのは私達議員であるとの自覚に立ち、出来るだけ穏やかに社会制度改革を現実世界 (地域) にソフトランディングさせる必要があり、現場に即した改革の担い手にならなければならないと考える。その活動目標への大いなる示唆に富んだ研修であると考えている。
研修内容	①豊かな長寿社会を将来に *清家 篤 氏 *世界に類を見ない高齢化の流れは、社会的には「成功の証」と捉えていくべきだ。高齢化を喜べるようにすべきである。今後は支える力を強化する意味で、具体的には労働人口の見直し等によって、高齢者と女性の労働力率を上げることができる。それには、労働を促進する様々な制度改革が必要になってくる。社会保障や医療介護の在り方を、自助・共助・公助の役割分担の考えを整理し、将来世代の為にもしっかりと対応していくべきである。

<p>研修内容</p>	<p>②地方行政を取り巻く現状と地域づくり *池田 憲治氏 (予定していた講師が急速変更になった為、内容的には清家氏の講義と重なる部分が多かった) *国は、現在 2040 年をどの様に迎えるかを調査・研究し対応を議論している。人口減少においていかに満足度の高い人生と人間を尊重するのは、都市部の東京都、神奈川県、愛知県、埼玉県、大阪府、福岡県、千葉県、兵庫県などで、これからの都道府県では生産年齢人口が大きく減少する。更に 2050 年には、現在人が居住している地域の 2 割が無居住になると考えられる。様々なデータで研究しているが、特効薬はないのが現実。いかに穏やかに現状を変えながら制度設計を考えているのが現実である。</p> <p>③変化する地方行政と議員の役割 *山田 啓二 氏 *今までのお二人の講師は、国の立場からの対策であったが、山田氏は地方行政の側からの対策を講義いただいた。 地方行政も社会の変化にそれぞれ対応していくのだが、今後のキーワードとしては、新しい形の「共生」であるとする。 もともと日本人は、絆の強い社会であるが、最近は町内会や自治会の加入率が低下している。そんな中で、「シェアリング」と「コラボレーション」であるという。日本人の特性を生かしながら、心地よい距離を保ちながら、共に生きる。</p> <p>④インクルーシブ社会に向けて *永瀬 充 氏 *19 歳で難病にかかり、パラアイスホッケーに出会う。3 度のパラリンピックにキーパーとして出場して銀メダルを獲得。引退後は障がい者支援センターで働き、講演活動を続け「障害があっても無くとも一緒にスポーツを楽しめる地域づくり」に奮闘中。 自身も共感を持ちながら講演を拝聴し、皆が生き生きと生活できる環境を目指すことに努力していきたい。</p>
<p>考 察</p>	<p>(研修を通して宍粟市に於ける可能性や問題点などを考察する) 世界で類を見ない少子高齢化は、国としても特効薬はないのが現実である。国で示された施策を迅速に進めるのは、地方行政・地方議員の務めであるが、国とのギャップは必ず生まれるであろう。それを地域に適応した型で出来るだけ違和感なく推進しなくてはならない。 また、山田氏の言う「新しい共生」は大切な視点だと考える。 山田氏は、日本人はとても協調性がある民族である。それ故に地域に於いてでも、自治会はこの協調性を根幹にして成り立っている。しか</p>

考 察	し、今日では自治会に所属しない人達も増えてきている。今後は、運命共同体のような自治会仕組から、心地よい距離感を保ちながら共に生きる。新しい世代は、そんな「コラボ」や「シェアリング」の様な考え方を主流にする「新しい共生」を定着させる必要がある。
--------	---

写真】（可能であれば添付）

